主任相談支援専門員養成研修　スーパビジョン演習事例概要　個人ワーク

鈴木幸子さん　女性　年齢２４歳

初回面談は母と共に来所（1年前）。市役所に紹介されて、母親主導で相談支援事業所を訪れた。幸子さんも同席したが、横を向いていて話を向けても全く答えようとしなかった。母親が一方的に話し、なんとか聞き出した経過は以下の通りだった。

母親曰く、私の娘に障害はない。学校では軽度知的の疑いがあるので、無理やり特別支援学級に入れられた。今でも学校と教育委員会には文句がある。現在は、母との二人暮らし。父とは小６の時に離婚した。母親は市立病院に事務職として勤めて、女手一つで娘を育ててきた。

幸子さんは、小学校時代からダンスが得意で人気歌手の振り付けを完璧に覚えることができた。高校は地元の私立高校になんとか入学でき、母が送り迎えをして卒業近くまで通ったが、学校でいじめられたことにより退学した。

しばらく自宅からは外出ができない状態になったが、中学時代の恩師に支えられ、なんとか外出することができるようになった。

駅前のマクドナルドに行くことが好きで、一人で過ごすことも多かったが、中学時代の友人と再会し遊び仲間（旧ダンス仲間）となった。夜遊びをすることが多く、朝方に帰宅し昼間寝て、夕方から出かけるような生活になった。困った母は、中学時代の恩師に相談したが、先生自身も体調を崩しており、関わりは切れてしまった。

そんなある日に気づいてみると、幸子さんが自宅に戻らない日が増え始めた。帰宅すると高額なアクセサリー等を身につけているので、母が問いただすと働いて買ったとのことだった。それが風俗で働くことの始まりだった。母は風俗だけは辞めさせたいとして、お店に掛け合い退職させることはできたが、「彼氏が欲しい」「お金が欲しい」ということが増え、うるさい母親から離れたいと、「一人暮らしがしたい」との希望が強くなっている。

そんなある日、恩師から母へ電話があり、市役所に行って知的障害者の手帳申請や福祉作業所など、福祉サービスを利用したらどうかと諭された。そこで、市役所に相談に行ったところ、市内の基幹相談支援事業所を紹介され、無理やり幸子さんを連れて行った。そして、広瀬さん（相談支援専門員）と鈴木幸子さんは出会って現在に至ります。

広瀬さんは現在の相談支援事業所で2年ほど働いて、社会福祉士の資格を取得して毎日やりがいを感じて仕事をしてきました。しかし、1年ほど前に担当した鈴木幸子さんがあまり好きになれず、仕事が辞めたいぐらい悩んでいます。

●あなたはこの情報を、他の相談支援専門員から聞きました。これから、この広瀬さんにスーパビジョンを行う予定です。

①まず、これだけの情報から鈴木幸子さんがどんな人だと思うか想像してみてください。

②次に幸子さんを理解するために、担当の広瀬さんになにを聞くか考えてください。また、その質問はなにを知るためにするのか理由（質問の意図）を考えてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 質問内容 | 理由（質問の意図） |
| １ |  |  |
| ２ |  |  |
| ３ |  |  |

③次に広瀬さんを理解するために、なにを聞くか考えてください。また、その質問はなにを知るためにするのか理由（質問の意図）を考えてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 質問内容 | 理由（質問の意図） |
| １ |  |  |
| ２ |  |  |
| ３ |  |  |

④また、上記の質問についてどうやって訊くか（問いかけ方）を考えてください。

・

・

・